



故 河 端 俊 治 先 生

The late Professor Toshiharu Kawabata

(1918~1999)

河端俊治先生のご逝去を悼む

日本水産学会名誉会員河端俊治博士は1999年1月4日東京都国分寺市において逝去されました。享年80才でした。先生は1918年(大正7年)6月30日、京都市麻布区(現東京都港区)にお生まれになり、1941年12月農林省水産講習所製造学科をご卒業されました。その後、日魯漁業株式会社研究所、兵役を経て、1945年東京帝国大学伝染病研究所食品防疫研究室の研究員となられ、1947年国立予防衛生研究所(現国立感染症研究所)設立に伴い食品衛生部に移籍され、1958年食品衛生部第一室長となり、1984年に退官されました。1960年九州大学より農学博士の学位を授与されました。また東京大学農学部非常勤講師(1958年~1977年)、お茶の水女子大学家政学部ならびに大学院家政学研究科非常勤講師(1964年~1976年)、東京水産大学水産学部非常勤講師(1967年~1974年)、東北大学農学部非常勤講師(1969年~1978年)、九州大学大学院農学研究科非常勤講師(1972年~1973年)、東京家政学院大学教授(非常勤)(1981年~1991年)、中国ハルビン医科大学顧問教授(1991年~1999年)なども兼任されるとともに、厚生省食品衛生調査会委員、厚生省中央薬事審議会臨時委員などを歴任されました。

ご研究の内容は、水産食品の鮮度・腐敗・食中毒、食品防腐剤・抗生物質、食品照射、魚類の放射能汚染、食品微生物・冷凍食品、*N*-ニトロソ化合物など広範囲に及び、著書60冊、研究論文150編を出され、水産食品の衛生分野に多大な功績を残されました。先生は、日本水産学会の理事、評議員、編集委員長、編集委員、各種委員会委員等を歴任され、本学会の発展に著しく貢献されました。1958年に「魚類の放射能汚染に関する研究」により日本水産学会賞、1981年に「水産食品衛生に関する一連の研究」により日本水産学会賞功績賞を受賞されました。

ご退官後も、日本食品保全研究会会長、農林水産省食品安全性向上開発事業推進委員会委員長、農林水産省食品工場安全向上総合管理システム開発事業(HACCPマニュアル策定委員会)委員長、水産庁水産加工品品質確保対策事業

(HACCP マニュアル策定) 総合検討会座長をなされておりました。また、河端先生の心広いお人柄から、数多くの弟子達が慕って集まり毎年会合を持っておりましたが、昨年秋には少々体調を崩されたことから、春の暖かくなった時にまた皆との再会を楽しみにしていると話されておりました。年末になり急遽悪化され、永眠されました。

ここに河端俊治先生の生前のご功績を称え、謹んで哀悼の意を表します。 (鈴木 健, 東京水産大学教授)